

総論 病理 1

Executive summary

- 地域流行型真菌症の診断に病理組織学的検査が有用な場合が多い。
- 地域流行型真菌症は高病原性のものが多く、強く疑われる場合は検体採取後迅速なホルマリン固定が推奨される。
- 地域流行型真菌症の病理組織学的検査には積極的にグロコット染色, periodic acid-Schiff (PAS) 染色などの特殊染色を併用する。
- 真菌の存在が明確なホルマリン固定パラフィン包埋組織(FFPE)を材料とした遺伝子同定が診断に有用な場合がある。

各論

Executive summary

- 地域流行型真菌症の病理診断は互いに鑑別対象になる症例が多い。
- 肉芽腫性病変の病理像が確認された場合、地域流行型真菌症も鑑別に挙げる。
- 典型的な病理像が確認できないものの、渡航歴などの臨床情報から地域流行型真菌症が強く疑われる場合、遺伝子検査の活用を含めた総合的な診断が望まれる。